

○議長（濱野良一君）

2番 鈴木美香君。

○2番（鈴木美香君）

おはようございます。2番、立憲民主党鈴木美香です。

まず、最初に、さっそく1つ目の質問にまいります。防災教育にフェーズフリーの導入を。フェーズフリーとは、「日常」と「非常時」の垣根を取り払い、身の回りにあるものやサービスを、日常、非常時を問わず役立てるという考え方であり、近年、防災の新しい概念として注目されています。

例えば、学校の算数の授業で、地図上で自宅と周辺施設や避難施設との距離・高さなどを確認する、国語で防災に関する慣用句やことわざを考えるなど、普段の授業で防災に関わるテーマを日常的、継続的に取り入れることにより、より身近で生活に即した防災知識が身につくこととなります。

毎年どこかで豪雨、地震、高潮など大きな災害が発生しており、島も他人事ではありません。今後フェーズフリーの考え方を学校の防災教育に取り入れる考えはおありでしょうか。

○議長（濱野良一君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

失礼します。それでは、鈴木議員のご質問にお答えいたします。

鈴木議員ご指摘のフェーズフリーの考え方については、その中で平常時と災害時という社会の垣根を取り払う、そういう趣旨があるかと思えます。この点においては、学校では普段からさまざまな活動の中で、子どもたちに注意や呼びかけを行っております。

例えば、台風や地震等の災害の情報が全国で流れた際には、学級活動や朝の会などの時間の中で子どもたちが身近に感じることができるよう話をしたり、命を守るためにはどのようなことが必要かなどを話し合ったりしております。

また、各小中学校では、学期ごとにさまざまな災害を想定した防災訓練も行っており、防災教育についてはその都度工夫するよう心がけています。

ただ、災害の危険性をあまり強調しすぎると小学校低学年の場合は、毎日の生活に不安を感じることもあるので、防災教育を進める上では、年齢に応じた細やかな配慮が必要と考えています。

今後においても、引き続き災害が身近なものであるということを、子どもたちが平常時から意識を持てるよう指導、また配慮していくとともに、教職員においても冷静で迅速な対応ができるよう準備していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○2 番（鈴木美香君）

普段からそういうのをされているというのは、存じ上げてるんですけど、そういう、なんて言うんですかね、そういう特別な活動というのではなく、一般的な、こう授業の中に取り入れるという、もっとう身近なことでちょっと提案してるんですけども。小さなことでも繰り返すことによって身につき、役立つことがあるという考え方なんですけど、徳島の鳴門市ではすでにフェーズフリーを実践しておりまして、先進事例として情報交換などをするお考えはありませんか。

○議長（濱野良一君）

佐伯課長。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

再質問にお答えします。

ちょっと今のところ、その他市町のその状況というのは把握しておりませんので、また学校とも相談しながらそういうところも確認していきたいと思いません。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○2 番（鈴木美香君）

ぜひ、災害も今も頻発しておりますので、東南海地震も予測されてますので、ぜひお願いいたします。

では、2つ目の質問です。食育の推進について。

食べることは、体の発達だけではなく、心の安定、精神の発達に大きく影響します。特に子どもにとっては、食育は食を通じ生きる力を育む重要な役割を果たすものと考えています。

土庄町においても「第2期子ども子育て支援事業計画」の中で、食育の推進が掲げられています。そこでお伺いします。

1つ目、現在、食育としてどのような取り組みを行っておりますか。

○議長（濱野良一君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

それでは、鈴木議員のご質問にお答えいたします。

小中学校における食育の取り組みについてですが、小学校においては、給食の食べ残しをなくすことを目的に、クラスごとに「食缶空っぽデー」と名付けて、その日の食缶が空っぽになるよう児童会活動として取り組んでいます。また、栄養教諭からの食育の授業も実施しておりまして、食材の選定方法や食べ

物への感謝の心、また食文化への理解など食事の重要性について勉強をしています。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○2番（鈴木美香君）

2つ目です。香川県から全国に広がった、その食育の最たるものとして2つ目、香川県から全国に広がった「弁当の日」という取り組みがあります。自分で作ることで、親への感謝、食材への理解、食べられることのありがたさを実感できるだけではなく、自分でできたという自信にもつながります。また、気候変動による食糧難が危惧される中、食品ロスへの理解も育まれると思います。

土庄町でもぜひ、食育の推進のために「弁当の日」を取り入れてはと提案いたします。

○議長（濱野良一君）

佐伯課長。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

それでは、鈴木議員の2番目の質問の「弁当の日」についてですが、小中学校では食育を目的とした弁当日は、今のところ実施はしておりません。しかし、学校行事のさまざまな運営の中で、休日等が授業日となった場合など、保護者に弁当をお願いすることとしておりまして、年間7回から8回程度は、弁当日となっております。

それを踏まえて、今後においてはこの弁当日への働きかけとして、例えば親子で一緒に弁当を作ったり、また子どもが自分で弁当を作ったりするなど、弁当の作り手への感謝や食べ物大切さを子どもたちが理解していけるよう、学校とともに食育のあり方として、保護者に推奨していけたらと思っております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○2番（鈴木美香君）

はい。ぜひ、子どもさん自身に買い物から自分で作るっていう、そうすると食育っていうのは、もう自立にもつながると思います。弁当の実践は、保護者に負担になるとも思います。でも、ぜひやっていただきたいというのは提案いたします。

では、3つ目の質問です。沖之島架橋に対する住民の声について。

沖之島の架橋工事の着工が間近に迫っていますが、海面から橋の下部までが3mほどの高さしかなく、漁船が通過できないことに疑義を唱えている人々がいま

1つ目、このような声があることを町長は把握していますか。

○議長（濱野良一君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

沖之島架橋により橋の下部を漁船が航行できないことに疑義を唱えている方がいらっしゃることは把握しております。以上です。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○2番（鈴木美香君）

これは、だいぶ大きなプロジェクトですので、決定権っていうのは町長にございますので、町長が把握しているかどうかっていうのをちょっとお伺いしたいです。

○議長（濱野良一君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

当然、把握はしております。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○2番（鈴木美香君）

2つ目ですが、決定までのプロセスは、十分に住民の意見を吸い上げたと思っておりますか。

○議長（濱野良一君）

濱口課長。

○建設課長（濱口浩司君）

それでは、鈴木議員の再質問にお答えいたします。

沖之島離島架橋事業は、平成28年6月に要望書が提出されるとともに、地元四海地区沖之島架橋推進協議会が設立され機運が高まりました。そのような中で、架橋条件及びルート選定を行いました。当初3ルートを選定し、概算事業費等を算出したところ高額となり、断念する方向に向かいました。すでにその時点で、橋の下3.5mでの協議を行っておりました。その後、再度地元から現在のルートでの架橋検討の強い申し出があり、関係機関との協議を重ね、架橋条件が決定いたしました。また、その都度、四海漁業協同組合及び四海地区沖之島架橋推進協議会との調整を図るとともに、総務建設常任委員会でも議論をいただきました。

当初、橋の下を航行できることを皆さま要望されておりましたが、橋の下を

航行できる構造となれば、橋の延長も長くなり事業費等の面で断念しなければならず、今まで不便な思いをしてきた沖之島住民の方の心情に寄り添う選択を地元の方にいただき、現在の計画になりましたので、ご理解いただきたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○2番（鈴木美香君）

濱口課長から、すみません、私も、個人的に何回も説明を受けて、本当にしつこいことで申し訳ないと思うんですが、漁師さんを生業にしてられる方で、今までそういう文化ですとか、守っておられる方が将来を心配してすごく声をあげてらっしゃるってことを私もどうしてもその声を無視できないというので、質問させていただいております。公共工事というのは止まらない、止まりにくいってというのは十分承知していますが、一度立ち止まり再考の余地ってというのは一切ないものなんでしょうか。

○議長（濱野良一君）

濱口課長。

○建設課長（濱口浩司君）

現在の状況では、すでに詳細設計、ボーリング調査はしておいた段階で、現在のルートが一番最安くできるというような状況でございますので、今の状況から変わることはないかなというふうには考えております。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○2番（鈴木美香君）

何回も濱口課長にお伺いして、その説明も受けてるんですけども、皆さんやはり、私の一住民のときの感覚と同じで、大型の公共建設の話が出てくると人それぞれなので、一定数意見が分かれるのはある意味当たり前であります。が、全体としてその決定過程が不透明で、知らない間に決まってしまう個人の意見を言える場も機会もないといった話をよく耳にします。私もそういう経験があります。一部の人たちが都合よく決めてしまっているのではないかと不信感も蔓延しています。それは十分に住民の意見を吸い上げる姿勢が足りていないのではないかと。個々の住民の意見が吸い上げられていないのではないかと。効率悪く、時間がかかり、面倒なのが民主主義です。声の届きにくい少数意見にもぜひ耳を貸し、丁寧な対応ができていないのではないかと思われてなりません。町長と行政幹部にその点を強く考えていただきたいと思っております。

そして、最後の質問ですが、私はこの質問は通告書に載っていませんが、濱野議長の独断で一方的に削除され、再質問がございました。私は、削除された理

由も納得も承諾もしていませんし、議論の府である議会での議員の質問権を奪うことが、議長には権限はないと考えています。なので、質問させていただきます。

○議長（濱野良一君）

鈴木議員、鈴木議員、鈴木議員。

○2番（鈴木美香君）

自衛隊入隊のこと。2月の委員会冒頭で。

休憩

○議長（濱野良一君）

暫時休憩いたします。

休 憩 午前 10 時 12 分

再 開 午前 10 時 24 分

出席議員及び欠席議員

休憩前に同じ。

地方自治法第 121 条による出席者

休憩前に同じ。

議会事務局職員

休憩前に同じ。

再開

○議長（濱野良一君）

再開いたします。

○議長（濱野良一君）

鈴木美香君。

○2番（鈴木美香君）

以上で私の質問は終わります。